

アートの窓



奥物部美術館では、タカハシユミコ展を開催します。

タカハシユミコは、布絵という技法で絵を制作する作家です。通常絵を描くときには絵の具と絵筆を使いますが、それを布と糸と針に替えて、美しい布絵の世界を作り出します。従来、パッチワークなど布で作られる作品は手芸品

超えて、自由自在に空想の世界を駆け巡り、独特の気品ある美しさをまといながら、やさしいメルヘンの世界を表現しています。

今回の出品作品は、一つ一つ異なるテーマの、布によるイラストレーション作品約20点です。少しずつ秋めいていくこの季節にぴったりの、じっくりと楽しめる展示になることでしよう。

ぜひこの機会に、奥物部美術館まで足を運んでいただきたいと思えます。(館長・都築房子)

奥物部美術館

タカハシユミコ展

10月11日(土)～11月30日(日)



▲北上夜曲

吉井勇記念館だより

山里ミニコンサート

香美市の童謡を楽しむ会の皆さんによるコンサートを開催します。

島崎照代さん(メゾソプラノ)を講師に迎え、長井薫さんのピアノ伴奏に乗せて、なじみ深い曲を披露します。今回はゲストとして、香北町の柿の実コーラスの皆さんにも出演していただきます。

【日時】10月11日(土) 14時～15時
【場所】吉井勇記念館アーチ内

おしゃべりお茶会

記念館アーチ内に、喫茶コーナーを設けます。秋の風情の中で、お茶とお菓子を召し上がりいただけます。 ※無料

【日時】11月1日(土) 9時30分～16時30分

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

※雨天の場合、猪野々集会所(記念館西隣)

【講師】島崎照代さん(日本演奏連盟会員、高知音楽協会代表、女声合唱団リングライン指揮者。土佐山田町在住)

【送迎バス】 ※要予約
香美市役所西庁舎前より、市役所香北支所経由で、無料送迎バスを運行します。

行き 12時30分発
(香北支所前12時50分) 帰り 15時15分発
香北支所経由西庁舎前

【展示解説】館内では、特別展『吉井勇と京都』も生きた勇の叙情』を開催中です。希望の方には学芸員による展示解説を行っております。受付にてお申し込みください。 ※要入館料

香美市文芸



◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

喫茶店窓辺に蓮の花咲きて
ひぐらしの声を遠くに散歩道
宵闇の匂ひ占めたる花蜜柑
石投げに興ずる親子夏の川
ひつそりと志士の生家の鴨足草
揚花火肩の力を抜きにゆく
そよ風の中なる朝の法師蟬
一村の息の止まりし日の盛り
蝉しぐれ聞きつつ病後は元気づき
秋の風雅楽の音色運びけり
早出にて上げ潮に乗る鱧子釣り
大豆畑待ちに待ちたる喜雨のあり
三つ指を束ねし程の葎を巻く
草刈りの音と匂いと届きけり
父母のことふとおもふ秋の空
観費用四角いスイカ箱育ち
新涼やゴルフボールで足つよく

◆美良布俳句会◆

暑気払ひ言ひ出したるは飲まぬ人
新しき宅地の狭間青田かな
秋の蛇出合ひ頭と云ふ出会ひ
新盆の夫抱きたき嬰兒をだき
整然と背を光らせて初秋刀魚

小野寺朱実
北村千鶴子
森本 幸美
相澤 睦子
千頭 野草
上池 児未
都築 忠義
森本 純喜
有澤 春江
山崎 貴子
高野 和一
楮佐古きよ
山崎 寿美
森岡 秀野
三谷 誠郎
坂本美智子
三木 牧子

岡本かほる
明石ゆきゑ
北村 幸子
北村 里子
小野川順子

秋茄子に期待を込めて剪定す
水溜まり蟬の命の尽きていし
北枕なれど快適青田風

◆かがみ野俳句会◆
終戦日母のお焦げの塩結び
子や孫も手伝ひ迎ふ盆の客
少年の辞儀して通る眼の涼し
炎ゆる日を耐へし花木へ水を遣る
盆帰省パーベキューと決めにけり
先頭に合す歩幅や阿波踊
転びそう父の声あり茄子の馬
峽へ向かふドクターヘリ―梅雨末期

◆かほく俳句会◆
顔洗つてもあらつても残暑かな
爪切つて涼し介護士美人なり
天気凶に台風二つ梨熟るる
帰省の子婆の似顔絵置き去りに
水音の近くに聞こゆ今朝の秋
含差草人に好かれし母なりし
いざなぎの郷神風の風涼し
公園の出来て子等来る日の盛り
中元に山本山の海苔貫ふ
送り火の消えて静かに振り返る
土に生き土に祈りて終戦日
逝く夏の十字に縛る古雑誌
モノクロの記憶に残る終戦日
白蓮の二輪を隅に金閣寺
盆花のどつと売れゆくお昼前
宅配夫時化の昼来て戸を叩く
なつかしと棘持つ胡瓜喜ばれ

前田 芳子
中内ゆかり
竹内 ろ草
乾 真紀子
奥宮さとみ
久保内鏡子
黒岩千英子
小松 完
小松 隆之
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
前田 智
間崎 和代
森本 之子
山崎かずみ
山中 晶子
山中 瑞輝
山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆
救急ヘリとんぼのように揚がりけり
目覚めては芙蓉の落花の音を聞く
霧のぼる棚田に塩パイプ埋め
向日葵や一万本の町おこし
向日葵や一万本の町おこし
現し世の汚れを知らぬ白芙蓉
野良仕事汗は出し切りビールかな
雷光や透きとほるほど白き部屋
八月豪雨去りて安堵の米を研ぐ
東京の車来ている盆の家
まだ袖を通さぬままに秋袷
衣紋掛寂寂とある夜の秋
散歩圏少し伸ばせし稲の秋

明石 菲生
安丸 楨子
前田美智子
森田 菊恵
森田 貞男
川谷 泰山
笹岡 英世
前田 小夜
橋本 昭和
大石 邦男
樫谷 雅道
田村 一翠

今月のキラリ

石投げに興ずる親子夏の川
雨期を経て水かさの増した大川を前に石投げに興じる親子。その姿に重ねて、我が子の成長を思うのであろう。郷愁を誘う一句である。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】 総務課内広報委員会事務局 俳句・短歌係
〒782-8501 (住所記載不要) FAX 53・5958